

中国における総合的日本語教育の現状

彭 広陸

Ⅰ. はじめに

日本語教育は、世界的に隆盛の一途を辿っている昨今であるが、中国でも相変わらず日本語ブームが続いている。ざっと計算して、中国における日本語学習人口は100万を下らないだろう⁽¹⁾。特に高等教育の場合は、大学に見られる日本語学科の拡大・新設や教養としての日本語教育の強化によって、日本語の学習者（日本語専攻の大学生と、日本語を第二外国語として学習する大学生）は急増している。『大学日本語専攻基礎段階学習指導要領（高等院校日語専業基礎段階教学大綱）』の「前書き（前言）」によると、2001年現在、日本語専攻が設置されている大学は約110校あり、学生数は約11000人に達しているという。実際には、ここ二三年の日本語学科の新設や大幅な定員増加によって、この数字を上回っているはずである。

周知のように、外国語教育の場合は、ただその言語を教えるだけでいいというものではない。目的語の背後に潜んでいる文化や、その国の事情もきちんと教えないといけないことは言うまでもない。そのための、日本学と有機的に結びついた総合的日本語教育が一般的に意識されるようになるに至っていないとはいえ⁽²⁾、中国の大学では、それなりの教育が行われているのである。例えば、日本語専攻の学生向けに一般に「日本事情（日本概況）」という科目が開設されている。大学によっては「日本文化」などの科目が設けられているところもある。

筆者は、中国における総合的日本語教育の現状を明らかにするために、不十分ではあるが、2003年6月にアンケート調査を実施してみた。以下は、その調査の結果を中心に話を進めていきたいと思う。

Ⅱ. アンケート調査の結果

調査の対象に次に挙げる13の大学（五十音順）を選んだ。北京の大学が多いが、一応地域のバランスも考慮に入れた。

広東外語外貿大学、上海外国語大学、上海大学、首都師範大学、西安交通大学、清華大学、大連外国語学院⁽³⁾、同済大学（上海）、北京外国語大学、北京大学、北京第二外国語学院、福建師範大学、洛陽外国語学院

以下はアンケートとその回答の集計の結果である。〔 〕の中は、筆者のコメントや注釈である。

1. 日本語専攻の学部的大学生向けに日本事情や日本文化などを紹介する科目を設けていますか。

(1) 設けている。(13校。100%)

(2) 設けていない。

(1) 「設けている」場合は、2から15の質問にお答え下さい。

(2) 「設けていない」の場合は15のみお答え下さい。

* 2～14では「設けている」科目について、うかがいます。

2. 科目の名称を次の中から選んでください（複数可）。

(1) 日本事情（日本概況）（10校）

(2) 日本文化（7校）

(3) 日本歴史（4校）

(4) 日本地理（1校）

(5) その他（具体的にお書き下さい）

「日本社会」「日本民俗(日本風俗習慣)」「日本経済」「日本映画テレビ文化」「日中文化交流史」「日中文化比較」「報刊閲読」⁽⁴⁾

3. 対象学年をお答え下さい(複数可)。

- (1) 一年生(2校) (2) 二年生(7校) (3) 三年生(8校) (4) 四年生(4校)

〔科目によっては、対象学年が違うこともあるが、どちらかと言うと、二年次と三年次に開設されるのが普通である。もっとも、低学年向けに開設されている場合は母語である中国語、高学年向けに開設されている場合は日本語で講義している傾向があるようである。〕

4. 開講期間をお答え下さい。

- (1) 通年(3校) (2) 半期(9校) (3) その他(1年半:1校)

5. 時間数をお答え下さい。

- (1) 週に2時間(13校) (2) 週に4時間 (3) 隔週2時間

6. その科目は次のいずれですか?

- (1) 必修:「日本事情」(5校)、「日本文化」(3校)
(2) 選択必修:「日本事情」(5校)、「日本文化」(3校)、「日本歴史」(2校)、「日本民俗」(1校)、「日本社会」(1校)、「日中文化交流史」(1校)
(3) 選択:「日本地理」(1校)、「日本経済」(1校)

〔筆者の勤務している大学では、学生に主体的に学習内容を決める権利を与えようということで、専攻と直接に関係のある科目がどんどん「必修」から外され、「選択必修」に回されていることが起きている。〕

7. 担当教員についてお答えください。

①教員の国籍は(複数可)?

- (1) 中国(12校) (2) 日本(3校) (3) その他

〔日本人の教師(専門家も含む)が中国の大学で担当している科目の多くは、「精読」「会話」「作文」「日本事情」などである。日本人の教師が「日本事情」などを担当する時は、中国人の教師より正確に「事情」そのものを教えることができる一面があるものの、「外国人から見た」という視点が欠けているということが指摘できそうである。〕

②担当教員の年齢は(複数可)?

- (1) 二十代(2校)、(2) 三十代(7校)、(3) 四十代(2校)、
(4) 五十代(4校)、(5) 六十代(3校)

〔このデータは中国における大学の日本語教師の年齢構成を如実に反映しているものと思われる。全体的に40代と30代の日本語教師がいちばん多い。〕

③教員が中国人の場合、一年以上の日本留学や日本研修などの経験がありますか。

- (1) ある(9校) (2) ない(4校)

〔一時代前に比べると、現在は、日本語教師の何らかの形で在外研究の機会がだいぶ増えてきたのは事実である。一年以上の日本留学や日本研修などの経験を持っていないのは、大学を卒業したり、あるいは大学院を修了したりしたばかりの若手の教師が多いようである。一般的に言えば、専門的な勉強をした場合を除いて、自分の目で日本を見たことのない若い教師よりは、肌で日本を感じたことのある中年の教師が「日本事情」などを担当することが望ましい。〕

8. 使用テキストは？

(1) 市販の教科書 (5校)、(2) プリント (8校)

(3) その他：日本で出版された教科書 (1校)、内部出版のテキスト (2校)

[市販の教科書があまり利用されていないのは、市販の教科書が少ないことと市販の教科書についての宣伝が足りないことによるものだと考えられる。]

9. 8で (1) と答えた場合、以下にお答えください。

①教科書名：

『現代日本概況』(李中林編著、北京航空航天大学出版社、2000) (1校)

『日本』(上・下、大森和夫・大森弘子・曲維著、大連出版社、1997) (1校)

『日本文化概論』(魏長海著、中国文化書院、1988) (1校)

『日本文化史』(孫宗明著、上海外語教育出版社、1993) (1校)

『政治・経済』(飯坂良明ほか著、東京学習出版、2001) (1校)

『日本文化史』(家永三郎著、第2版、岩波新書) (1校)

[市販の教科書が前より増えているものの、広く利用されていないのは残念なことである。それだけでなく、以下に挙げるような、市販されていないが、あまり、あるいはほとんど利用されていない教科書も少なくないようである。このことは、出版社・編著者による宣伝が足りないことに起因していると考えられる。日本語関係の研究誌にも教材出版の情報を提供してほしいものである。]

『日本世情』(佐々木瑞枝著、陸沢軍・趙軍民訳、外語教学與出版社、1995)

『日本経済』(馮紹奎編著、高等教育出版社、1998)

『日本国家概況』(劉笑明編著、南開大学出版社、2000)

『日本文化』(王勇著、高等教育出版社、2001)

『日本社会』(李国慶編著、高等教育出版社、2001)

『日本教育』(陳永明編著、高等教育出版社、2003)

②教科書 (プリントも含む) の使用言語：中国語 (0校)、日本語 (7校)、
中日対訳 (1校)

③教員から見た、学生の教科書に対する満足度は？ [未回答がある]

イ. 非常に満足している。(1校)

ロ. かなり満足している。

ハ. ほぼ満足している。(6校)

ニ. あまり満足していない。(1校)

ホ. 不満である。

10. プリントを使用の場合はそのシラバスをお書きください。

○戦後の日本政治、日中憲法の比較 (1校)

○日本の地理、日本の年中行事、現代にも生きている伝統文化、日本の教育、日本人の家庭、日本人のマナー、日本の政治、戦後の日本経済 (1校)

○日本の地理・気候・人口・民族・年中行事・祝日・風俗習慣・社会現象 (1校)

[市販の教科書を使用している、補助教材としてプリントを配る大学もあるという。]

11. テキスト以外に使用されている教材があれば、○をつけてください。

(1) パネル (4校)

(2) 写真 (8校)

(3) 雑誌 (5校)

(4) 掛図 (3校)

(5) 実物

(6) ビデオ (4校)

(7) DVD (1校)

(8) パソコン(インターネット) (3校)

(9) その他 (具体的に：)

12. この科目の開講の必要性について担当教員の評価をお答えください。〔未回答がある〕

- (1) 非常に必要である (5校) (2) かなり必要である (4校)
- (3) どちらかという必要である (2校) (4) あまり必要でない
- (5) 不要

13. この科目は、学生が日本事情や日本文化を理解する上で、効果がありますか。〔未回答がある〕

- (1) 非常に効果がある (1校) (2) かなり効果がある (5校)
- (3) どちらかという効果がある (6校) (4) あまり効果がない
- (5) 全く効果がない

14. 担当教員から見た、この科目の内容に対する学生の満足度をお答えください。〔未回答がある〕

- (1) 非常に満足している (1校) (2) かなり満足している (2校)
- (3) ほぼ満足している (7校) (4) あまり満足していない (1校)
- (5) 不満である

15. 他に何かお気づきのことがありましたら、ご記入ください。

○ビデオ等の視聴覚的教材を使用することができたら、よりいっそう深い理解が得られるだろう。

〔日本事情や日本文化を教えるのにマルチメディアが活用できるのが望ましいが、予算不足で設備などハードの面が充実していないのが普遍的な現象である。〕

○授業における学生の反応から感じたこと

- ①日本の歴史に関する誤解は相当根強いものがある。
- ②社会体制の相違から日本人とは違う観点から知識を得ていることが多い。
- ③「男女平等」に関しては中日双方に相当の誤解がありそうである。

〔やはり相当認識のずれがあるようである。政治やマスコミに左右されずに、客観的に偏ることなく日本事情を教えることが必要だと思われる。〕

- ④学生たちは古典に対して抵抗感が少なく、むしろ親近感を持ってくれる。

○特にこれと言った意見はないが、もし日本語の理解に繋がる日本文化の教科書があればいいあと期待しております。

○上に挙げた諸講義 (5つ) のほとんどは、100人以上の人が大きい教室で一緒に受講することになっているので、その効果や学生たちの勉強意欲などの点については、なお検討・改善する余地があると思われる。

〔大学によってかなり事情が違うようである。〕

○日本語専攻の学生は「精読」「会話」「翻訳」など他の科目でも日本文化について勉強しているから、日本文化や日本事情に関する科目を設けると、その内容や形式、構成などをよく考える必要があると思います。いかに学生の専攻内容と重複せずしかも関連付けて授業を展開することが肝心なことでしょう。この問題は他の専攻の学生にとっても同じです。そのため、『日本概況』といったような教科書は対象を明確にして編纂すべきだと思います。

〔もっともなご意見だと思う。日本語の主教材や技能別の教科書を作成する教師と、日本事情・日本文化の教科書を作成する教師とが別々である場合がほとんどであるので、そういう配慮が足りないため、結果的には内容がばらばらで一体感のないものになっているのである。〕

○中国で出版される日本語の『日本事情』の教材を期待しています。また、できれば、写真や図表などのような直感的な資料がたくさん入ったほうがいいと思います。DVD版の参考資料もセットとして作っていただければもっとありがたいです。

〔もっと真剣に対処すべきである。本質的に根本的にこの科目の位置づけに関わる問題だと思う。いままではこの問題は真正面から取り上げられていなかったのである。〕

Ⅲ. 問題の整理

以上見てきたアンケート調査の結果を踏まえて、筆者が日ごろ考えていることを交えて問題を整理してみたいと思う。

多くの教師に嘆かれているように、教科書については、解決を急がなければならない問題がいくつかあるのではないかと考えられる。一つは、日本事情や日本文化などを教えるための教科書作成の重要性への認識が不足していることが指摘できる。使用言語から言えば、二年生や三年生用の教科書は日本語によるものが望ましい。そのような教科書の作成は中日の大学教師や研究者が共同で参加したほうが効果的だと思われる。立場の異なる著者の合作だと、内容の統一が難しいかもしれないが、複合的な視点によって日本事情や日本文化を捉えることができるので、理想的ではないかと思う。中日両国の研究者は、もっと連携を密にしなければならない。もちろん、せっかくなので教科書を作っている、宣伝に力を入れないと、そもそも情報不足になりがちな中国だから、利用してもらえないだろう。更なる工夫が望まれる。

今一つ指摘できる問題は、中国における日本学研究がどんどんレベルアップしているのに、その研究成果が意外と日本事情や日本文化の教育に反映されていないことである⁽⁵⁾。言い換えれば、日本学と日本語教育は一体となっていないということになる。まだ総合的にはなっていないと言っても過言ではない。古い課題ではあるが、研究と教育との結びつきが一日も早く改善されるよう望むものである。

最後に、日本事情や日本文化の授業の教え方について一言触れておきたいと思う。最初の段階では、学生の興味を引き立てるために、現象や有形のものを中心に教えてもよいのであるが（その方が効果的かもしれないが）、日本社会や日本文化に対する学生の理解を深めるためには、言うならば、現象を通して本質に対する理解を図るためには、表面的なことにとどめないで、考えさせる教え方が必要になると思われる。詰め込みをやめて、時々討論させるのも方法の一つになるだろう。そうすることによって、学生の思考能力もだんだん高まることになるだろう。事実、そのように教えている教師もいるという。とにかく、教材が改善されても、教え方の工夫が不可欠なのである。

Ⅳ. おわりに

以上、小さなアンケート調査を手掛かりに、大雑把に中国における総合的日本語教育の現状を考察して、その問題点も指摘してみた。大学教師の自覚の向上や中日の学者の交流がいつそう頻繁になるにつれて、中国における総合的日本語教育はもっと大きく発展することになるだろう。

注

- (1) 拙稿「中国における日本語教育事情とその周辺」を参照のこと。
- (2) 「総合的日本語教育」については、この論文集に掲載されている森山新氏と李徳奉氏の文章で詳しく言及されているので、参照されたい。
- (3) 「学院」とは、単科大学のことである。
- (4) 「報刊閲読」は、学生に日本の新聞を読ませて日本の社会を理解させるための科目である。
- (5) まだ利用している大学は少ないようではあるが、研究者によって執筆され、高等教育出版社から刊行された『日本学基礎精選叢書』（全8種）は大学生と大学院生向けの教科書である。上に挙げた『日本社会』『日本文化』『日本経済』『日本教育』の他に、既刊のものとして『日本言語』（徐一平編著）がある。また、『日本文学』『日本歴史』『日本芸術』の出版も予定されている。

参考文献

- 国際交流基金 2002 『日本語教育国別事情調査 中国日本語事情』
篠崎摂子 2000 「国際交流基金リポート[中国]転換期を迎えた中国の日本語専門教育——中国の大学日本語専攻教育の動向」『月刊日本語』5月号、アルク
彭広陸 近刊 「中国における日本語教育事情とその周辺」『国立国語研究所国際シンポジウム報告集』

付記：アンケート調査に協力してくださった各大学の諸先生に対して、深甚なる謝意を表する。